⑤省・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会
⑥生物多様性、森林、海洋等の環境保全

市民団体との河川清掃活動

○　市民団体「舞鶴の川と海を美しくする会」 からの協力依頼に対し、環境保全及び相互交流を深めることなどを目的とし、基地司令から発出された命令の下、海上自衛隊の活動として共同で河川清掃を実施。

【活動概要】
- 実 施　日：令和３年６月２０日（日）
- 参加者等：第１４護衛隊及び隷下護衛艦「せんだい」の有志隊員と市民団体「榎川を美しくする会」
- 活動内容：舞鶴市榎川（えのきがわ）の清掃活動
  ※　榎川は、旧海軍舞鶴鎮守府開設に伴う工事で川底の一部を石畳とした海上自衛隊においてもなじみ深い河川。

【成果等】
１．本活動を通じ、海上自衛隊の理解が深化
２．環境問題への理解促進
　この活動を通じ、京都や近江で生まれた精神を現代に繋ぎ、隊員一人ひとりが環境問題への理解を深め、平素から環境保全を意識する機会となった。

感謝　⇔　地域貢献

※　次回は、令和３年１０月に海上保安庁職員も合同で環境保全活動を実施予定。

清掃活動参加者

（9）　２０２１年７月１５日　第１０５５号　防　衛　ホ　ー　ム

地元市民団体と榎川の清掃活動
市民と共に汗を流す（第14護衛隊）

第14護衛隊（司令・目賀田瑞彦1海佐＝舞鶴）及び隷下艦艇「せんだい」（艦長・榎本健児2海佐）では、環境省が定めた6月の「環境月間」に伴い、6月20日に地元市民団体の「榎川（えのきがわ）を美しくする会」（会長・高橋秀策氏）と合同で榎川の清掃活動を実施した。

榎川は舞鶴市中部を流れ、舞鶴地方総監部敷地内にも流れている景観の美しい川だ。歴史を紐解くと、明治35年に旧海軍舞鶴鎮守府開設に伴う工事で川底の一部が石畳となり、川沿いにも旧海軍の施設が建設され、旧海軍そして舞鶴地区の海上自衛隊にもなじみ深い川と言える。また市民団体「榎川を美しくする会」は、この歴史ある川の清掃を〝次世代の子供たちへ美しい舞鶴の川と海を残す〟というコンセプトの下、年に数回のペースで清掃活動を継続している。

当日は、天候にも恵まれ、朝8時から第14護衛隊司令、せんだい艦長及び先任伍長（佐々木卓見海曹長）含め、海自側14名、市民団体側約80名で協力し、コロナ防止策を徹底しつつ、いい汗をかきながら和気あいあいと清掃を行った。草が生え茂る榎川だったが、清掃が終わった後はとても綺麗になり、伝統ある石畳が川床に映えるようになった。

清掃終了後、市民団体の方々からは「いつもより綺麗になりました。ありがとう」や「若いくれてとてもよかった」といった多数聞かれた。また若年隊員から方々の役に立てを流せました。る石畳を市民掃できてよかいった感想が京都の思想梅岩の石門心の〝三方よし、買い手に営の原点としs（持続可能業の社会的責等を推進する見直され、重

環境保全、海自理解の促進
海自14護衛隊　地元団体と川を清掃

海自14護衛隊（司令・目賀田一海佐）と隷下艦艇「せんだい」は6月20日、環境省が定めた6月の「環境月間」に伴い、地元市民団体の「榎川を美しくする会」（高橋秀策会長）と合同で榎川の清掃活動を実施した。

榎川は、舞鶴市中部を流れ、石畳となり、川沿いにも旧海軍の施設が建設され、旧海軍、舞鶴地方総監部敷地内にも流れている景観の美しい川。明治35年に旧海軍舞鶴鎮守府開設に伴う工事で川底の一部が

防衛日報
（令和３年７月２６日付）